

* 街ですれ違う全ての人々がマスクをするようになって早3年がたちました。このような変化の中にあっても我々は新たな人々と出会うわけですが、困ったことにマスクをしていると顔を覚えられません。元々、人の顔と名前を覚えるのが苦手な私にとっては大きな問題です。オンライン越しの会議で出会う人々の場合は、顔全体を見られることも多いですが、実際に会ったときにマスク越しに認識できるかどうかは分かりません。また、最近はネットワークの負荷を増やさないために発言時以外はカメラをオフにすることも増えました。そうすると、発言の機会のなかった人や何かの事情でカメラをオンにできなかった人は、顔を見ることすらできません。加えてオンライン会議の場合には、必要な発言しかならないため、会議自体は効率良く進行するかもしれませんが、話が本題から横道に逸れることも少なければ、会議後に雑談をすることもありませんので、何気ない会話を通じて人柄をうかがい知ることもできません。そう考えると、コロナ禍の現状では人との関わり方に、ある種

の割り切りが必要です。

* コロナ禍以前は、公式・非公式を問わず会議終了後に懇親会があると、都合のつく限り参加してきましたし、私にとってはそれが会議に参加するモチベーションの一つでもありました。そして、そのような交流でも細々と続けていると、決して社交的ではないと自覚している私でさえ、実に多くの方々に懇意にして頂けていることに気づきます。今、世間では現実空間とサイバー空間を行き来する超スマート社会の実現が叫ばれています。こと人と人のつながりという点において、今後、対面で知り合ったときと同じような、あるいはそれを超えるような体験ができるようになるのかどうか、興味は尽きません。本誌2月号の小特集はデータセンターネットワークの最新動向です。超スマート社会における社会・経済活動を支える屋台骨として、様々な技術革新が行われています。是非御一読頂ければ幸いです。

(編集理事 佐波孝彦)

3月号小特集予定目次

「電子情報通信技術のもたらす社会・個人への影響——倫理綱領改訂に向けて——」

- 小特集編集にあたって……………編集チームリーダー 多川孝央 澤島康仁
1. 良い倫理的意決定のための倫理綱領——研究・イノベーションと倫理——
……………大谷卓史 大澤博隆 壁谷彰慶 川口嘉奈子
……………川口由起子 神崎宣次 久木田水生 杉本俊介
 2. データサイエンス・人工知能社会における差別と偏見……………村上祐子
 3. 電子情報通信技術をめぐる「ジレンマの認識と ELSI」を学ぶ……………辰己丈夫
 4. 電子情報通信技術と CSR・SDGs・ESG——倫理綱領における議論の経緯——……………橘 雄介
 5. データサイエンスの ELSI——機械学習を応用する上での適正なデータ活用について——……………森下壮一郎
 6. AI の ELSI と研究倫理……………久木田水生
 7. 電子情報流通に不可欠な著作権保護技術とブロックチェーン技術の倫理的観点からの考察
……………宮田純子 岡田仁志 木下宏揚
 8. ソーシャルメディアの Trust & Safety に向けた取組み……………森下壮一郎 高野雅典
 9. 法令・規定・標準等の更新について——特に「倫理と法」の議論の経緯——
……………橘 雄介 加藤尚徳 桑原 俊 高木幸一
 10. 倫理綱領・行動指針の改正について……………電子情報通信学会倫理綱領検討小委員会